



2026年3月6日

独立行政法人国立科学博物館

企画展「琉球の植物 - 南国を育む植物たち - 」 開催および報道内覧会のご案内

国立科学博物館 筑波実験植物園(園長 遊川 知久)において、3月20日(金・祝)から3月29日(日)まで、企画展「琉球の植物 - 南国を育む植物たち - 」を開催いたします。

琉球列島とは、九州と台湾の間に連なる島々の総称で、ほとんどの島では冬でも暖かい亜熱帯となります。琉球列島には乾燥した海岸や湿潤な溪流沿いなど多様な環境があり、それらの環境に適応した植物を人々が活用することで琉球の植物文化が生まれました。この地域は日本で最も植物種の多様性が高い地域であると同時に、残念なことに絶滅危惧植物の集中する地域ともなっています。

本企画展では、琉球列島に生きる貴重な植物の展示と、地殻変動など琉球列島に植物の豊かな生物多様性をもたらした要因を解説したパネル展示を通して、琉球列島の亜熱帯に生きる植物を知っていただくとともに、生物多様性の重要性、人々の暮らしとの関わりを紹介いたします。

つきましては、本企画展の開催に先立ち、3月19日(木)13時30分～14時30分の間、報道内覧会を実施いたします。是非、この機会にご参加いただき、記事の掲載など広報に関して特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

報道内覧会への参加をご希望の方は、下欄のお問い合わせ先にご一報のうえ、13時15分に筑波地区研究管理棟1階 玄関ホールにお越しください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館 経営管理部 研究推進・管理課

研究活動広報担当: 稲葉 祐一 久保田 美咲

担当研究員: 國府方 吾郎 筑波実験植物園 研究員

(植物研究部 多様性解析・保全グループ グループ長)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-853-8984 FAX: 029-853-8998

E-mail: t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館WEBサイト

<https://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園 WEB サイト

<https://tbg.kahaku.go.jp/>

企画展「琉球の植物-南国を育む植物たち-」開催概要

1. 目 的 琉球列島に生きる貴重な植物の展示と、地殻変動など琉球列島に植物の豊かな生物多様性をもたらした要因を解説したパネル展示を通して、琉球列島の亜熱帯に生きる植物、生物多様性の重要性、人々の暮らしとの関わりを紹介する。
2. 名 称 企画展「琉球の植物-南国を育む植物たち-」
3. 主 催 独立行政法人国立科学博物館 筑波実験植物園
4. 会 期 2026年3月20日(金・祝)～3月29日(日) 計10日間 (期間中休園日なし)
5. 場 所 研修展示館1階展示室、多目的温室

6. 展示構成

【研修展示館】

① 琉球は動いてきたー琉球列島の地史ー

およそ200万年前、琉球列島が現在の日本本土、ユーラシア大陸、台湾と陸続きだった頃に、動物たちとともに植物も琉球に渡来しました。その後島が分断されたことによって、遺伝子の交流が妨げられ、独自の固有種が形成されました。琉球の生物相はこの地史に大きな影響を受けています。本展示では琉球列島の地史が生物相に与えた影響をわかりやすく解説します。

② 植物からみた琉球列島

ある地域に生育している植物のまとまりを植物相といい、その植物相の相違により分けられた地域が植物区系です。琉球列島は植物相によって、北琉球(大隈諸島・トカラ列島)、中琉球(トカラ列島・奄美群島・沖縄群島)、南琉球(宮古諸島・八重山諸島)、大東諸島、尖閣諸島の5地域に区別されます。本展示ではそれら植物区系の特徴を説明します。

③ 琉球の植物相はなぜ豊富？

種の多様性が高く、絶滅危惧種の集中する地域をホットスポットといいます。2006年、日本列島の全土がホットスポットに指定されました。その日本列島のなかでも琉球列島は最も豊富な生物相をもちます。植物の場合、琉球列島の単位面積当たりの植物種数は九州以北の日本列島の約45倍といわれています。なぜ琉球列島がこんなに高い種多様性をもつようになったのかを解説します。



④ 植物とひとー生物資源としての植物ー

亜熱帯で育まれた琉球の植物は人々の生活を支え、豊かな文化をもたらしました。古くから利用されてきた植物のほかに、最近ではクサミズキなど医学的に新たな有用性を持つ植物が発見され、生物資源としての琉球の自生植物が脚光を浴びています。これら琉球列島の人々が昔から利用してきた植物を紹介します。



【多目的温室】

⑤ 琉球を彩る植物たち

琉球列島では、多様な環境に、異なる形態や特徴を持つさまざまな植物が適応して生きています。海岸、溪流沿いなどの環境に分け、生きた植物を温室にて展示します。



サキシマツツジ



テンノウメ



ヤエヤマズコウジュ



リュウキュウハナイカダ

7. 関連イベント

①講座

■植物園研究最前線「琉球を彩る植物たち」

日時 2026年3月20日(金・祝) 13:30～15:00
講師 國府方 吾郎(筑波実験植物園 研究員)
会場 研修展示館3階セミナー室
定員 30名(イベントの1か月前から電話受付 TEL:029-851-5159)

②講演会

■琉球の文化を植物科学から探る

日時 2026年3月22日(日) 13:00～15:00
演題および講師
「貴重な琉球の植物たち」(筑波実験植物園 國府方 吾郎)
「リュウキュウアイをはじめとする染織文化に関わる植物」(筑波実験植物園 村井 良徳)
「文化遺産グスクに残る知られざる植物の多様性」(東北大学植物園 伊東 拓朗)
会場 研修展示館3階セミナー室
定員 30名(要事前予約:筑波実験植物園HPIにて1か月前から申込を開始します。)

③展示案内

日時 2026年3月21日(土)、3月28日(土)、3月29日(日)
各日13:30～14:00
定員 なし
講師 國府方 吾郎(筑波実験植物園 研究員)
集合場所 研修展示館1階ホール

琉球植物

～南国を育む植物たち～

国立科学博物館 筑波実験植物園

2026年

3/20  3/29 

会期中無休

〔開園時間〕
9:00-16:30
(入園は16:00まで)

会場：〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998 <https://tb.g.kahaku.go.jp>
入園料：一般320円(20名以上の団体:250円) 高校生以下・65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方及びその介護者1名無料

詳しい内容は
こちらから↓



琉球植物

～南国を育む植物たち～

琉球列島とは、九州と台湾の間に連なる島々の総称で、ほとんどの島では冬でも暖かい亜熱帯となります。琉球列島には乾燥した海岸や湿潤な溪流沿いなど多様な環境があり、それらの環境に適応した植物を人々が活用することで琉球の植物文化が生まれました。この地域は日本で最も植物種の多様性が高い地域であると同時に、残念なことに絶滅危惧植物の集中する地域ともなっています。本企画展で、琉球列島に生きる貴重な植物を通じて、生物多様性の重要性和自然の恵みを感じてください。



サキシマツツジ



リュウキュウハナイカダ



ヤエヤマズコウシュ



アツバアサガオ



コウトウシュウカイドウ

イベント

●講座・植物園研究最前線

要予約 開催の1か月前からお電話にて受付します
TEL:029-851-5159(定員30名)

『琉球を彩る植物たち』

日時:3/20(金・祝)13:30～15:00 会場:研修展示館3階セミナー室
講師:国立科学博物館 筑波実験植物園 國府方吾郎

●講演会

要予約 ホームページの予約フォームからお申し込みください(定員30名)

『琉球の文化を植物科学から探る』

「貴重な琉球の植物たち」(国立科学博物館 筑波実験植物園 國府方吾郎)
「リュウキュウアイをはじめとする染織文化に関わる植物」
(国立科学博物館 筑波実験植物園 村井良徳)
「文化遺産グスクに残る知られざる植物の多様性」
(東北大学植物園 伊東拓朗)

日時:3/22(日)13:00～15:00 会場:研修展示館3階セミナー室

●展示案内

予約不要

日時:3/21(土)・28(土)・29(日)13:30～14:00 集合場所:研修展示館1階
講師:国立科学博物館 筑波実験植物園 國府方吾郎

アクセス情報

- 【電車・バス】つくばエクスプレス「つくば」駅より
- ・つくバス 北部シャトル筑波山行き「天久保(筑波実験植物園)」下車徒歩3分
- ・関東鉄道バス テクノパーク大穂行き「筑波実験植物園前」下車徒歩3分 筑波大学循環(左回り)「天久保2丁目」下車徒歩10分
- 【自動車】※無料駐車場約120台
- ・常磐自動車道 桜土浦 I.C. から北(筑波山方面)へ約8km
- ・圏央道 つくば中央 I.C. から約7km

